

平成28年度 国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻 において実施された研究分野を横断するプロジェクト例

シンポジウム3件(うち2件は国際シンポジウム)、国際シンポジウム+展覧会1件、国際研究会1件、パブリックレクチャー4件、特別講義9件、海外リサーチワークショップ1件を開催している。

これらのうち海外リサーチワークショップは学生8名を教員4名とともに韓国のソウル及び光州に4日間派遣し、ソウル大学で共同研究会を開催、また韓国のアーティストやキュレーター等との交流を行ったが、学生はアートマネジメント分野から2名、キュレーション分野から4名、リサーチ分野から2名が参加した。



海外リサーチワークショップ(韓国)

また上野校地の学生会館で1月に開催した国際シンポジウム+展覧会「LANDSCAPE」では、シンポジウム等に各分野の学生が幅広く来場したのはもとよりであるが、特に、キュレーション分野3名、リサーチ分野2名の学生がアーティストトークやパネルディスカッションへの登壇、海外アーティストの通訳、学生企画の立案・実施などの多様な形態で参加した。



国際シンポジウム+展覧会「LANDSCAPE」

その他の実績は以下のとおり。

○シンポジウム3件

実施日	題 目	概 要	会場
平成28年7月3日	芸術文化の創造と大学の未来	国内外からのゲストパネリストとともにグローバル化する社会における芸術文化の創造と大学の未来を探る。奏楽 企画: 箕口一美(国際芸術創造研究科講師)、演奏: 廣江理枝(オルガニスト、音楽学部准教授) / パネリスト ジャスティン・ジュスティ(ワシントン大学助教授)、吉見俊哉(東京大学大学院教授)、ジャネット・ピライ(インデペンデント・リサーチャー)、カン・ミュング(ソウル国立大学教授)、熊倉純子(国際芸術創造研究科教授)、長谷川祐子(国際芸術創造研究科教授) / モデレーター 毛利嘉孝(国際芸術創造研究科教授)	上野
平成28年12月4日	世界のアートプロジェクトから: アート、コミュニティー、エデュケーション —東南アジアの多文化社会におけるアートの役割—	マレーシアと東南アジアのアートプロジェクトの最新状況と、日本のクラシック音楽についての事例を紹介し、アートプロジェクトをめぐる世界の状況について考える。パネリスト: ジャネット・ピライ(インディペンデント・リサーチャー/マレーシア)、スニサ・ジャナモハナン(ラサール大学クリエイティブ・インダストリー学科/シンガポール)、箕口一美(東京芸術大学大学院国際芸術創造研究科) / 司会: 熊倉純子(国際芸術創造研究科)	上野
平成29年3月31日	Jポップのグローバル化とデジタル時代の国際放送の役割	7回目になるJ-MELOリサーチ(NHKによるネットアンケート)の結果をもとにJポップの世界の広がりや国際放送の役割を議論するとともに、この状況の中で独自の国際的な活動を展開しているミュージシャンの宮沢和史さんをお迎えし、これからの日本の音楽のあり方を考える。	千住

○国際研究会1件

実施日	題 目	概 要	会場
平成28年4月9日	変容する創造都市: ロンドン・東京、二つのオリンピック都市の現在を考える	2020年のオリンピックに向けて東京の都市空間はどのように変化するのだろうか。2014年のオリンピックから4年が経過したロンドンの都市空間を参照しつつ、都市と文化、芸術、グローバル化の変容を検討する国際研究集会を公開で開催した。問題提起者: マイク・フェザーストーン(ゴールドスミス・カレッジ教授)、吉見俊哉(東京大学大学院情報学環教授)、毛利嘉孝(大学院国際芸術研究科教授) / 討論者: 玉利智子(ゴールドスミス・カレッジ講師)	上野

○パブリックレクチャー4件

実施日	題 目	講師名	講師所属等	会場
平成28年7月1日	ロスト・イン・ワールド: 存在論的現実性の危機について	○ローレンス・グロスバード(ビデオレクチャー) ○アン・アリソン	○ノースカロライナ大学教授 ○米国デューク大学教授	上野
平成28年7月16日	新たな気候体制と3つの美学: 科学、芸術、政治	ブルーノ・ラトゥール	哲学者、科学人類学者、科学社会学者。パリ政治学院副学長。	上野
平成28年7月23日	コミュニティとアートの接点	ジェームス・タイソン	シアターディレクター	千住
平成28年11月17日	錯乱のミュージアム	アンセルム・フランケ	キュレーター / ライター	上野

○特別講義9件

実施日	題 目	講師名	講師所属等	会場
平成28年5月10日	『デジタルから現実へ』-プロフェッショナルの音楽の変容と音楽家のキャリアへの影響について	シルケ・ツイーマン	元ソニー・ミュージック マーケティング & PR担当責任者、元ベルリン芸術祭コミュニケーション部共同主任、現シルケ・ツイーマン・コンサルティング代表	上野
平成28年6月28日	協働的な美学:現代美術のグローバルな傾向?	グンヒルド・ボーグリーン	コペンハーゲン大学 芸術・文化研究学部美術史・視覚文化准教授	千住
平成28年7月5日	Ain't Got Time to Die 展 in Deptford X, Londonを終えて	キュン チョメ	レジデンシープログラム「アートアクションUK」に選出された二人組ユニット	千住
平成28年7月12日	現在進行形のカタストロフにおいてアートに何ができるのか?	ジェイソン・ウェイト	インデペンデント・キュレーター	千住
平成28年9月9日	拘束服をまとった芸術実践:タイの現代美術を中心に	ジュダ・スー	美術批評家、インデペンデント・リサーチャー	上野
平成28年10月7日	デジタル時代の新聞批評の役割と次世代の書き手育成について	マーク・スウェット	音楽ライター・ロサンジェルス・タイムズ紙の文化部音楽担当	上野
平成28年11月11日	『アジア演劇』へのアプローチ:過去・現在・未来	滝口健	ドラマトウルク、翻訳者	上野
平成28年11月14日	ペドロ・イノウエを迎えて	ペドロ・イノウエ	グラフィックアーティスト、デザイナー	上野
平成28年11月18日	クラシック音楽におけるオルタナティブ・コンサートの形式	アンドレアス・フィアツィガー	アート戦略コンサルタント	上野

「グローバル時代の芸術文化概論」シラバス

科目名称	グローバル時代の芸術文化概論 (Arts in Globalization)	配当年次	1年・前期
担当教員	熊倉純子、毛利嘉孝、長谷川(金子)祐子	単 位	2
授 業 の テ ー マ	グローバル時代を迎えて、大きく変化しつつある芸術文化を、キュレーション、アートマネジメント、そして社会学や文化研究の観点から概観し、基礎的な知識と理論を身につける。さらにグローバル化に対応してコミュニケーション力を修得すると同時に、時代の変化に対応できるような幅広い知識を身につける。		
授業計画 及び内容	<p>21世紀に入りグローバル化が急速に進みつつある。芸術文化も例外ではない。アーティストやキュレーター、批評家はもちろんそれを取り巻くさまざまな制度は、日常的に国境を越え、新しいアートや文化の形式を生み出すだけでなく、展覧会やコンサート、シンポジウムなどさまざまな新しい実践を生み出している。本授業は、こうした状況に対応をできる人材を育成するために、アートマネジメント、リサーチ、キュレーションの三つの領域において、芸術文化がどのようにグローバル化の中で変容しているのかを検討する。</p> <p>本授業は、熊倉(アートマネジメント)、毛利(リサーチ)、長谷川(キュレーション)のオムニバス方式の講義とし、授業は英語で行う。また必要に応じて外部の専門家を交えて議論を行なう。</p> <p>【授業計画】 (熊倉純子／5回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アートの新たな担い手たち:21世紀のオルタナティブとは? 2 市民が集うアートセンターの歴史(ゲストスピーカー:Andy Eagle, Director,Chapter Art Center, UK:予定) 3 Ongoing な場の創生システム 4 アジアの先駆的アートセンター(ゲストスピーカー:Janet Pillai, University Sains, Malaysia:予定) 5 市民参加と社会関係資本 <p>(毛利嘉孝／5回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 グローバル化と多文化主義:「文化的市民権」の変容 7 ディアスポラ文化(ゲストスピーカー:Paul Gilroy, Professor University of London) 予定) 8 都市を視覚化する(ゲストスピーカー:Ian Thomas Ash(ドキュメンタリー映画監督) 予定) 9 「クールジャパン」政策と各国の芸術文化政策 10 創造産業と芸術文化の変容 <p>(長谷川祐子／5回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 11 キュレーターの立ち位置、グローバルとローカルの狭間 12 グローバルアートヒストリー(ゲストスピーカー:Hans Belting (Professor for Art History and Media Theory, Hochschule für Gestaltung,Karlsruhe) 予定) 13 プリミティブ研究とキュレーション(Amselm Frank (Head of Visual Arts at the HKW / House of World Cultures) 予定) 14 21世紀の美術館のモデル 15 観客とアートとの関係の形成、Rirkrit Tiravanijaワークショップ 		
教材・参 考書	Paulo Virno (2004) A Grammar of Multitude: For an Analysis of Contemporary Forms of Life, Semiotext		
成績評価 の方法	提出課題による評価を基本としつつ、授業態度等も勘案した上で総合的に評価する。		
履修上の 指示事項	授業はすべて英語で行う。		

国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻(D) 履修モデル例

＜履修モデル①＞

芸術と社会の関係に関する分野において高度な理論の体系的構築を志す者(美術作品の展覧会の理論的研究を行う場合の例)
 ＜想定されるキャリアパスの例：大学等における教育研究職 等＞

区分	1年次		2年次		3年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
選択必修科目	博士専門科目Ⅰ(キュレーションⅠ又はⅡ)		博士専門科目Ⅱ(キュレーションⅠ又はⅡ)			
	博士特別研究Ⅰ(キュレーションⅠ又はⅡ)		博士特別研究Ⅱ(キュレーションⅠ又はⅡ)			
大学院開設科目	博士専門科目Ⅰ(リサーチⅠ又はⅡ)		博士専門科目Ⅱ(リサーチⅠ又はⅡ)			
研究指導	「キュレーション領域」及び「リサーチ領域」等の指導教員による研究指導					
修得単位数	6		6			

＜履修モデル②＞

指導的立場において高度な理論に裏付けられた実践活動を志す者(アートプロジェクトの高度なマネージャーを目指す場合の例)
 ＜想定されるキャリアパスの例：大規模アートプロジェクトの指導的運営者 等＞

区分	1年次		2年次		3年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
選択必修科目	博士専門科目Ⅰ(アートマネジメントⅠ又はⅡ)		博士専門科目Ⅱ(アートマネジメントⅠ又はⅡ)			
	博士特別研究Ⅰ(アートマネジメントⅠ又はⅡ)		博士特別研究Ⅱ(アートマネジメントⅠ又はⅡ)			
大学院開設科目	メディア表現技法					
研究指導	「アートマネジメント領域」の指導教員による研究指導					
修得単位数	6		4			

＜履修モデル③＞

政府や国際機関において文化政策の企画・立案・実施に従事しようとする者(音楽を中心としたアジア地域との文化交流に従事することを志望する場合の例)

＜想定されるキャリアパスの例：国際文化芸術機関、政府系芸術支援機関 等＞

区分	1年次		2年次		3年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
選択必修科目	博士専門科目Ⅰ(リサーチⅠ又はⅡ)		博士専門科目Ⅱ(リサーチⅠ又はⅡ)			
	博士特別研究Ⅰ(リサーチⅠ又はⅡ)		博士特別研究Ⅱ(リサーチⅠ又はⅡ)			
大学院開設科目	音楽学特殊研究(東洋)Ⅰ・Ⅱ					
研究指導	「リサーチ領域」及び「アートマネジメント領域」等の指導教員による研究指導					
修得単位数	8		4			

＜履修モデル④＞

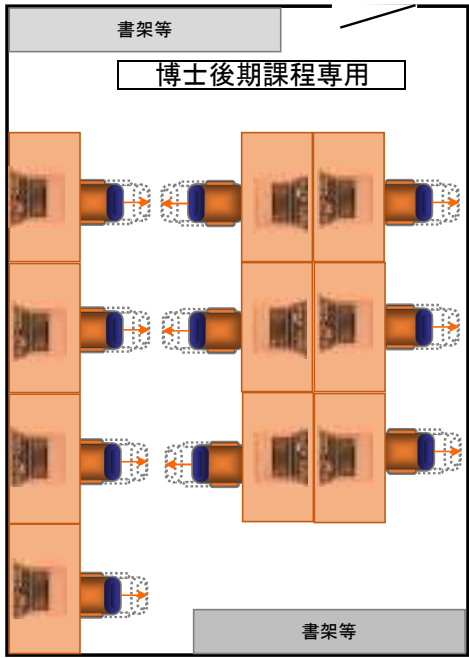
芸術文化と社会や経済との関係について研究し、国内外の文化経済学、芸術社会学、文化研究など芸術文化をめぐる人文社会科学の領域でグローバルなレベルの研究職を志す者(グローバル化におけるデジタルメディアと芸術文化の変容の研究を志望する場合の例)

＜想定されるキャリアパスの例：大学等教育研究機関の研究職 等＞

区分	1年次		2年次		3年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
選択必修科目	博士専門科目Ⅰ(リサーチⅠ又はⅡ)		博士専門科目Ⅱ(リサーチⅠ又はⅡ)			
	博士特別研究Ⅰ(リサーチⅠ又はⅡ)		博士特別研究Ⅱ(リサーチⅠ又はⅡ)			
大学院開設科目	博士専門科目Ⅰ(キュレーションⅠ,Ⅱ,マネジメントⅠ又はⅡ)		博士専門科目Ⅱ(キュレーションⅠ,Ⅱ,マネジメントⅠ又はⅡ)			
	博士特別研究Ⅰ(キュレーションⅠ,Ⅱ,マネジメントⅠ又はⅡ)		博士特別研究Ⅱ(キュレーションⅠ,Ⅱ,マネジメントⅠ又はⅡ)			
研究指導	「リサーチ領域」及び「キュレーション(又はアートマネジメント)領域」等の指導教員による研究指導					
修得単位数	8		8			

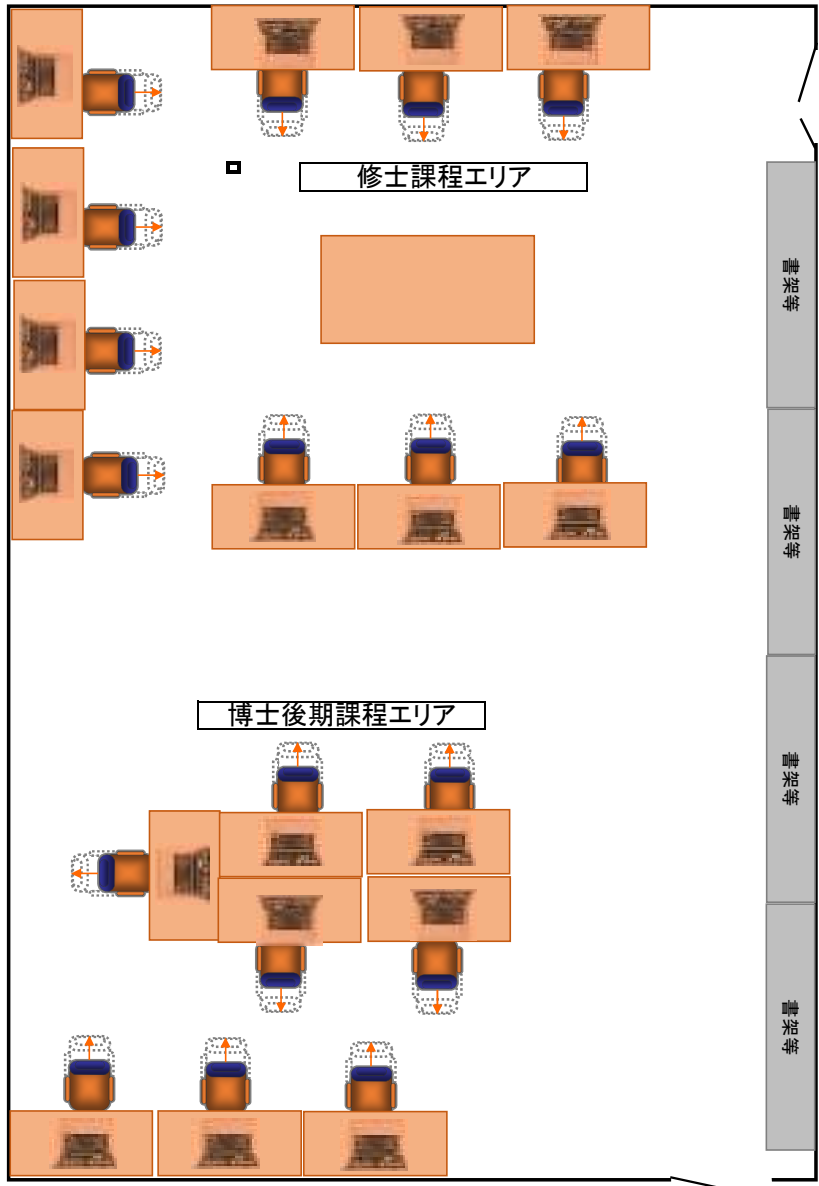
院 生 室 整 備 (拡 張) 計 画

千住校地



博士後期課程学生收容予定上限数10名

上野校地



博士後期課程学生收容予定上限数8名